

性同一性障害者のスポーツ参加における意義とメリット、今後の活動に関する研究

A study of significance and benefits of participation in sport of transgender person ,and activities in future

1K09B118-8

瀬川 真樹子

指導教員

主査 間野 義之先生

副査 木村 和彦先生

1.研究背景

日本精神神経学会によると平成19年末で性同一性障害と認定された患者数は約7000人にのぼり、未受診者を含めると1万人以上と推定されている。

近年、ニューハーフタレントのメディア業界進出や性同一性障害者を主役にしたテレビドラマ放送の影響で、性の多様性の認識は広がりを見せている。スポーツ界においてもここ数十年で性同一性障害者のアスリートの誕生や当事者を対象としたスポーツ大会が開催されている。それらの活動はスポーツ界だけでなく社会にも様々な影響を与えてきた。以上から性同一性障害者のスポーツ参加は、プロスポーツ界での性同一性障害者の活動範囲を広げるだけでなく、一般社会に対しても何らかの良い影響を与えることが期待できるのではないかと考える。

2.研究目的

スポーツが性同一性障害、もしくはセクシュアルマイノリティに関与した事例を調査し、当事者のスポーツ参加における意義やメリット、今後期待される活動を考察することを目的とする。

3.研究方法

本研究では日本と諸外国における性同一性障害者とそれ以外のセクシュアルマイノリティのスポーツ参加ともに、性同一性障害者を対象としたスポーツ競技会の活動を調べ、その事例をまとめる。またそれらの事例が社会やスポーツ界に与えた影響を調査する。

4.結果

我が国で性同一性障害者を公表しながらプロ活動を続行した選手は一人しかおらず、世界的に見てもその数は多いとは言えなかった。しかし五輪においてセクシュアルマイノリティを公表するアスリートは大会ごとに増加している為、スポーツ界の性の多様性に対する認識は広まってきている。

また性同一性障害者の参加が認められているゲイゲームズやワールドアウトゲームズ、今年ネパールで初開催された総合競技大会に伴って各地で性同一性障害やそれ以外のセクシュアルマイノリティの人権を保護する環境

が整っていることが分かった。

5.考察

世界各地における性同一性障害者のアスリートの出現により、数十年前と比較すると性同一性障害者でもプロスポーツ界に参加しやすくなっていることが分かった。性同一性障害者を対象とした総合競技大会は規模が大きく、内容も充実したものであることからその注目度の高さが伺える。

性同一性障害者のスポーツ参加は、後のスポーツ界の性に対する認識を良い方向へ導くだけでなく、性同一性障害を知らないスポーツ観戦者の関心を引き付け、当事者が生きやすい社会環境を整えることができると考えられる。また当事者アスリートは公表にあたり性同一性障害を解釈しやすい内容で説明することが求められる。性同一性障害を正しく認識してもらうように努めることは公表する者の大きな使命であり、今後の社会や自身の身の回りの環境を左右する鍵となるだろう。

6.結論

性同一性障害を患う人々にとってスポーツ界は現在、挑戦段階にあると言える。保守的なプロスポーツ界において当事者アスリートは現状を「変える側」に置かれているのである。今後、性同一性障害者が安心してスポーツに取り組める環境を作る為には、現在の当事者アスリートが正確な知識を持ち、積極的に活動を続けることが求められる。またその姿は偏見や差別を恐れ社会に出ることを恐れる当事者に大きな勇気を与えるメッセージにもなるのである。

プロスポーツ界と性同一性障害をめぐる今後の可能性としては、多数の当事者アスリートの出現により切り離すことができない関係となり、今まで以上にスポーツ界全体が性の多様性を認め、当事者に対しての対応を改善、構築されることが期待できる。またそれだけでなく、性同一性障害者のアスリートも様々な機会ですら積極的に行動を起こし、メディアの注目を集めることで、一般社会にも性同一性障害の認識が高まり、例えば法律の改善や性別適合手術への保険の適応など、当事者が生きやすい社会環境が整えられていくだろう。

